

令和7年度第1回山口連区防災訓練実施結果

令和7年6月30日
山口連区自治会
山口連区防災協議会

1 日時 令和7年6月15日（日）午後5時から6時30分まで

2 実施場所

各家庭、組集合場所、いっとき集合場所、山口北憩いの家

3 訓練想定

南海トラフ地震が発生し、瀬戸市で震度6弱を観測した。

4 実施した訓練とその結果

(1) おうち防災訓練

訓練方法を全世帯に周知し、各家庭において実施された。

(2) 安否確認・避難支援訓練

自治会加入全世帯に呼びかけ、訓練参加を依頼し実施した。

①住民防災台帳登録世帯数 2,533 世帯を統計分母とした

②安否札掲出数 1,194 世帯

③声掛け確認 610 世帯

④留守世帯 544 世帯

安否札掲出率②/① 47.1%

世帯安否確認率 (②+③)/① 71.2%

※留守世帯を含む確認率 (②+③+④)/① 92.7%

※住民が行う安否確認行動を評価する数値として、留守世帯を含む確認率という指標（この数値を100%に近づけることが安否確認の数値目標とすることが出来る。）

(3) 町内情報収集訓練

各町内で集められた情報が地域災害対策本部に集められた。

(4) 火災活動警戒訓練

町内防火防災委員により16町区域の火災発生がないことが確認報告された。また、同時に画像送信訓練を実施し、町内安否訓練の写真が防災協グループLINEに多数投稿され、組織内で共有した。

(5) 地域災害対策本部訓練

山口北憩いの家に地域災害対策本部が設置され、地域情報の収集と市災害対策本部との情報伝達を実施した。

参加者 自治会4名 防災リーダー19名 防災シニア10名 合計33名

ア 地域災害対策本部開設および事案対応訓練

対策本部の開設と模擬の安否問い合わせ、地域情報にかかる電話問い合わせに対応した。

イ 災害情報伝達票受付及び集計訓練

各町内で集められた伝達票を受付受領し、PC入力集計を実施した、発災から1時間以内に集計結果が出された

ウ 被害状況調査隊の出向訓練

防災リーダー3人ずつの4隊を編成し、自家用車4台を用いて、区域情報巡回収集と連区内20か所の防災マップ掲示板に避難所開設訓練情報を掲示した。

エ 避難所持ち出し資機材の選別及び現場対応資機材の取り扱い訓練

避難所出向の事前準備と現場資機材（簡易テント、簡易水槽、照明器具、指揮本部旗、プロパン発電機等）の取り扱い訓練を実施した。

所 感

山口連区防災協議会 防災士 山田昌彦

第12回目となる安否確認訓練は、組集合場所に出来るだけ多くの区域住民が集まり手分けして区域の安否確認を行うことを重点項目として実施した結果、その目標とした組集合場所の参集者数は、連区全体で761人と前回訓練（912人）より減少した。この参集者数は、町内区域を自分たちで守る意識の指標となることから、次回以降、啓発を強化する。

また、住民が行う安否確認行動を評価する数値として、留守世帯を含む確認率という指標（この数値を100%に近づけることを安否確認の数値目標とする）で検証すると、前回の訓練では98.2%であったものが92.7%と減少している。

その他、安否札掲出率、無事確認世帯数も低下している結果に鑑み、今回が12回目となる安否確認行動の意義や手法への理解が一部町内会で希薄になっていると考えられることから、次回の訓練は指導体制をさらに強化して臨むべきと考える。

今年度も防火防災員には町内区域任務を付託し、防災リーダー・シニアに対しては、速やかに地域災害対策本部に集結し、災害対策本部の情報収集等の任務としていることから、災害初期の段階で災害対策本部にマンパワーが投入できることとした。

今回の災害対策本部訓練では、事前の防災リーダー・シニアの訓練参加可否の把握はせず、集結した時点からの自家用車使用の協力依頼や任務振分け等を現場合わせの状況で実践した。集結したリーダーに災害発生時の混乱の中で「どういった任務が課せられるか」、「遂行するための要点」を示し、訓練として実践したことは、有事の際に特定の誰かが現場にいなくても躊躇することなく迅速な活動に繋がると考える。

今回の訓練に参加した防火防災委員、防災リーダー・シニアの皆さんそれぞれが協力的かつ臨機応変に活動していただいたことに、地域を守る意識の高さを感じた。

最後にこの訓練に参加いただいた自治会および各町内会の皆さん、山口分団、青パト役員ならびに防災協議会の防災リーダー、シニアそして防火防災委員の皆さんに厚くお礼申し上げます。

以上

